

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I—1	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する力を養う。また、そのために必要な観察力や洞察力を身に付けることができるように授業展開を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①介護過程展開のプロセスについて、説明することができる。</p> <p>②介護過程を展開する上での観察力や洞察力を身に付け、最終的に利用者個々にあった介護計画を立案することができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程とは何か (意義・目的) 2. 介護過程の展開プロセス 3. アセスメント①情報収集 4. アセスメント②情報収集・関連づけ統合化・課題の明確化 5. 演習① 6. 演習② 7. 演習③ 8. 演習④ 9. ICFと介護過程 10. 介護過程の展開の実際 (課題・目標・計画・実施・評価) 11. 介護過程とケアマネジメントの関係性 12. 利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開 13. チームアプローチ 演習 14. サークルチャート① 15. サークルチャート② 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングで学ぶ「介護過程ワークブック」(株式会社みらい) ・プリント配布 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 棚橋恭子 (実務経験者)
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (4 単位)	配当学年・時期 1 年・前期
必修・選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害や加齢によって生じた生活への支障に適切に対応するために、人間のこころとからだの働きに関する基本的なしくみが説明できる。</p> <p>高齢者のこころとからだの変化が一つひとつの生活行動とむすびついており、その基盤となっていることを説明できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・身体の構成と生きるしくみについて学び説明できる。 2・高齢者や身体上または精神上の障害のある人がより良い日常生活を営めるように生活支援に必要な知識と技術を学び実践できる。 		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 30</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころのしくみ①人間の欲求と自己実現 2. こころのしくみ②学習・記憶・思考・適応機制 3. からだの理解① 全身の筋肉 4. からだの理解② 全身の骨格 5. からだの理解③ 感覚器(眼球) 6. からだの理解③ 感覚器 (耳、その他) 7. からだの理解④ 呼吸器のしくみ 8. からだの理解⑤ 消化器のしくみ 9. からだの理解⑥ 泌尿器のしくみ 10. からだの理解⑦ 生殖器と内分泌 11. からだの理解⑧ 循環器のしくみ 12. からだの理解⑨ 血液 13. からだの理解⑩ 代謝のしくみ 14. からだの理解⑪ バイタルサインについて 15. からだの理解⑫ 脳・神経・ホメオスタシスについて 16. 移動に関するしくみ① ADLとIADL 17. 移動に関するしくみ② 基本的姿勢と歩行のしくみ 18. 移動に関するしくみ③ 廃用症候群 19. 移動に関するしくみ④ 転倒 20. 移動に関するしくみ⑤ 褥瘡 21. 身じたくに関連したしくみ① 身じたくの行為の生理的意味 22. 身じたくに関連したしくみ② 顔の構造・耳・鼻の構造と機能 23. 身じたくに関連したしくみ③ 爪・毛髪 of 構造と機能 24. 身じたくに関連したしくみ④ 眼の構造と機能 25. 身じたくに関連したしくみ⑤ 口腔の構造と機能 		

- 26. 身じたくに関連したしくみ⑥ 口腔の構造と機能
- 27. 入浴・清潔保持に関連したしくみ① 入浴・清潔に関連した基本知識
- 28. 入浴・清潔保持に関連したしくみ② 清潔保持に関連したところと身体のしくみ
- 29. 入浴・清潔保持に関連したしくみ③ 機能低による入浴・清潔保持に及ぼす影響
- 30. 入浴・清潔保持に関連したしくみ④ 変化の気づきと医療職との連携

<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・介護福祉士養成講座（中央法規出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「11 ところとからだのしくみ」 ・プリント配布 	<p>プリント配布</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要
---	--

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 (講義)	授業担当者 速水 貴昭 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	担当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症ケアの歴史、現状と今後の課題を説明できる。 2 認知症による障害、原因となる疾患、認知症と間違えられやすい症状、検査や治療を説明できる。 3 認知症の人の特徴的な心理と行動を述べるができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く状況 2. 認知症の人の行動・心理症状① 3. 認知症の人の行動・心理症状② 4. 脳のしくみ 5. 認知症の原因疾患① 6. 認知症の原因疾患② 7. 認知症の診断と治療① 8. 認知症の診断と治療② 9. 認知症の予防 10. 認知症の人の心理的理解① 11. 認知症の人の心理的理解② 12. 認知症の人の体験の理解 13. 認知症の人の生活理解① 14. 認知症の人の生活理解② 15. 若年性認知症の人の生活の理解と支援 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新・介護福祉士養成講座 12「認知症の理解」第3版 (中央法規出版) ・プリント配布 ・ビデオ、DVD教材など 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験と提出課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I-1	授業の種類 講 義	授業担当者 内藤照美(実務経験者) 福田康之 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できることを目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 生活を理解する視点 : 福田康之 1～7 2. 生活を理解する視点 3. 生活支援の基本的な考え方 4. 生活支援の基本的な考え方 5. 自立生活を支える意義と目的、家事の支援におけるアセスメント 6. 掃除・ごみ捨て方法、裁縫・衣類の補修と衣類、寝具の衛生管理、買い物援助 7. 家庭経営、家計の管理、他職種の役割と協働と在宅・施設での他職種との連携 8. 介護予防(サルコペニア対策)、 : 内藤照美 8～15 食生活の基本、栄養素 9. 炭水化物の働き 10. 食物繊維、脂質の働き 11. たんぱく質の働き 12. ミネラルの働き 13. ビタミンの働き、献立 14. 介護食、被服の機能 15. 被服の着方、まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 I-1	授業の種類 (講義・ <u>演習</u> ・実習)	授業担当者 速水 貴昭 (実務経験者) 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中には実践力を身に付けることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ① 学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適応できる能力を身に付ける ② 介護場面で遭遇した課題を解決するための思考、判断、行動力を身に付ける ③ コミュニケーション技術などを活用し、様々な人との人間関係を築く能力を身に付ける			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 15コマ 1. 実習についての説明 (実習要綱を用いて2年間の実習の流れを確認) 2. 実習施設の概要 (通所介護、小規模多機能型居宅介護、グループホーム) 3. 実習施設の概要 (特養、老健、障害者支援施設) 4. 実習 I-1 I-2 の個人票作成 5. 実習 I-1 I-2 の計画書・心構え作成 6. 実習 I-1 I-2 の計画書・心構え作成 7. 実習 I-1 I-2 の計画書・心構え作成 8. 実習記録の書き方演習 9. 実習記録の書き方演習 10. 実習事前オリエンテーションの説明 11. 実習の進め方・スケジュール作成 12. 実習前準備 13. 実習前準備 14. 実習前準備 15. 実習前準備			
[使用テキスト・参考文献] ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・提出課題を課し、授業態度や提出状況により到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I - 1	授業の種類 講 義	授業担当者 福田 康之 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の歴史的な経過やなぜ介護が必要になってきたか、介護の概念を学ぶことで、介護について述べるができる。介護福祉士の役割と機能を学ぶことで、福祉専門職としての資質について述べるができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護福祉とは「介護の成り立ち」「介護の概念の変遷」「介護福祉の基本理念」について述べるができる。介護福祉士の役割と機能とは「介護福祉士を取り巻く状況」「社会福祉士及び介護福祉士法」「介護福祉士養成カリキュラムの変遷」について述べるができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の成り立ち① 2. 介護の成り立ち② 3. 介護の概念の変遷① 4. 介護の概念の変遷② 5. 介護福祉の基本理念① 6. 介護福祉の基本理念② 7. 介護福祉の基本理念③ 8. 介護福祉士を取り巻く状況① 9. 介護福祉士を取り巻く状況② 10. 社会福祉士及び介護福祉士法① 11. 社会福祉士及び介護福祉士法② 12. 社会福祉士及び介護福祉士法③ 13. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷① 14. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷② 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座 介護の基本 I」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験とレポート課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 II-1	授業の種類 (演 習)	授業担当者 速水貴昭 (実務経験者)	
授業の回数 40回	時間数 (単位数) 80時間 (3単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。並びに、介護福祉士として介護者に指導することも視野に入れ、自分の言葉で指導できることを目指す。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合し介護技術が適切に実施できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本となる介護技術とは何か、技術演習の心構え、介護実習室使用説明等 2. ベッドメイキング 1・2年生合同 3. ベッドメイキング 寝具の敷き方、たたみ方 4. ベッドメイキング 寝具の敷き方、たたみ方 5. ベッドメイキング 三角コーナーの作り方 6. ベッドメイキング 一連の流れ 確認 7. ベッドメイキング テスト 8. ベッドメイキング テスト 9. 移動の意義と目的 10. 移動における介護の原則 ボディメカニクス 11. 安全で的確な移動・移乗の介助 ベッド上① 12. 安全で的確な移動・移乗の介助 ベッド上② 13. 安全で的確な移動・移乗の介助 体位変換、安楽な体位① 14. 安全で的確な移動・移乗の介助 体位変換、安楽な体位② 15. 安全で的確な移動・移乗の介助 歩行① 16. 安全で的確な移動・移乗の介助 歩行② 17. 安全で的確な移動・移乗の介助 車椅子① 18. 安全で的確な移動・移乗の介助 車椅子② 19. 利用者の状態・状況に応じた移動の介助① 20. 利用者の状態・状況に応じた移動の介助② 21. 移動・移乗介助の確認-1 22. 移動・移乗介助の確認-2 23. 身じたくにおける介護技術 衣類着脱 (端座位 パジャマ) 24. 身じたくにおける介護技術 衣類着脱 (臥床 病衣→パジャマ) 25. 身じたくにおける介護技術 浴衣-1 26. 身じたくにおける介護技術 浴衣-2 27. 身じたくにおける介護技術 かぶり衣類の介助 入浴 (特浴) 手順 			

28. 身じたくにおける介護技術 入浴後の身じたく介助
29. 安全で的確な食事介助 仰臥位で飲水体験
30. 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
31. 脱水の予防のための日常生活の留意点
32. 治療食・経管栄養（胃瘻）・中心静脈栄養
33. 排泄の意義と目的
34. 気持ちよい排泄を支える介護 環境づくり、我慢させない工夫等
35. 自立支援を支える排泄の介護とは
36. 安全・的確な排泄の介助 トイレ、ポータブルトイレ
37. 実習前の復習－1
38. 実習前の復習－2
39. 尿器・差し込み便器の介助
40. おむつの装着と排泄体験 レポート

[使用テキスト・参考文献]

- ・「新・介護福祉士養成講座 7
『生活支援技術Ⅱ』第3版」(中央法規出版)
- ・「最新介護福祉全書 6
『生活支援技術Ⅱ』(メジカルフレンド社
出版)
- ・プリント配布

[単位認定の方法及び基準]

- ・単位取得には8割以上の出席が必要
- ・筆記試験と実技課題、レポート課題を課し、
到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 生活レクリエーション援助 I	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 須藤 ひろみ (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を知り、実践に向けた計画を立てることができるようになる。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動の社会的意義を理解し、支援活動の必要性を考えられる。 ・レクリエーション事業の計画・実践・評価についての力を養うことができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15</p> <p>【レクリエーションの基礎理論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの意義 2. 支援者にとってのレクリエーション 3. レクリエーション運動を支える制度 4. レクリエーション運動を支える制度 <p>【レクリエーション支援論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ライフスタイルとレクリエーション 6. 高齢社会の課題とレクリエーション 7. 少子化の課題とレクリエーション 8. 地域とレクリエーション <p>【レクリエーション事業論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. レクリエーション事業とは 10. プログラムの組み立て方 11. 個々のアセスメントについて 12. 事業計画 I (個々人のアセスメントに基づいたプログラム計画) 13. 事業計画 II (市民を対象とした事業の作り方) 14. レクリエーション活動の安全管理 15. レクリエーションの基礎 まとめ個々人の認知世界 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レクリエーション支援の基礎」 (日本レクリエーション協会) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 栄 千恵子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性を知ることで、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について説明することができる。 ・介護場面における倫理的課題について課題解決に向けた考察ができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を理解すること 2. 人間の尊厳の意義 3. 自立の意義 4. 自立と自律 5. 人間の尊厳と自立 6. 人権、そして尊厳と自立の思想 7. 人権、そして尊厳と自立の思想をめぐる歴史的経緯 8. 人権、そして尊厳と自立に関する諸規定 9. 人が求める生活の幸せ 10. 生活を通して人間の尊厳と自立を考える 11. 生きる勇気の回復、そしてよりよき人生を送るために 12. 介護における権利擁護と人権尊重 13. 介護における自立支援 14. 介護における尊厳保持の実践 15. 介護における自立支援の実践 			
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座①人間の理解」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I	授業の種類 演 習	授業担当者 速水 貴昭 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働おけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で必要とされる人間關係の形成のためのコミュニケーション技術を理解し、利用者にかかわる人たちと利用者の關係調整能力を習得できる。 ・コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、それに対する適切なコミュニケーションが実践できる。 ・文書 (記録・報告書など) を通して、介護実践に必要とされる情報伝達技術を習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション概論 2. 自分のコミュニケーションスタイルを知る①ジョハリの窓 3. 自分のコミュニケーションスタイルを知る② 4. 介護技術とコミュニケーション① 5. 介護技術とコミュニケーション②、話を聴く方法 6. 利用者の感情表現を察する方法① 7. 利用者の感情表現を察する方法② 8. 直面化の方法① 9. 直面化の方法② 10. 利用者の納得と同意を得る方法① 11. 利用者の納得と同意を得る方法② 12. 質問の技法 13. 利用者の意欲を引き出す方法 14. 家族とのコミュニケーション 15. まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・介護福祉士養成講座 第3版 5 コミュニケーション技術」 (中央法規出版) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験とレポート課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 講 義	授業担当者 福田康之 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を述べることができ、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を述べるができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念や障害福祉の基本理念を説明できる。 ・ 障害の医学的側面の基礎的知識を説明できる。 ・ 障害のある人の生活を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を述べるができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念 障害のある人の生活像 2. わが国における障害者の法的定義 3. 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーション 4. リハビリテーション、インクルージョン 5. まとめ 6. 視覚障害のある人の生活 7. 聴覚・言語障害のある人の生活 8. 重複障害のある人の生活 9. 肢体不自由 (運動機能障害) のある人の生活 10. 心臓機能障害のある人の生活 11. 腎機能・呼吸機能障害のある人の生活 12. 膀胱・直腸機能・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活 13. 肝臓機能障害のある人の生活 14. 難病のある人の生活 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座 障害の理解」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	